

# 新★見聞記

## プラネットくんの



(イラスト：松島むむ)



観光庁が発表した2017年1～12月分の外国人延べ宿泊者数の確定値で、宮城県と僅差の260,330人泊で東北六県の2位、6割強の伸び率で全国の3位に輝いた青森県。プラネットサービスをご利用の株式会社クロベ代表取締役の黒部様、弘前の旅行会社「たびすけ」代表で株式会社インアウトバウンド仙台・松島の代表取締役を務める西谷様、青森県観光国際戦略局の清野様にご登場いただき、青森の魅力とインバウンド事情をご紹介します。

※本記事における数値は、原稿作成時点で確認できた関係機関の発表に基づいています。



青森市の人口10万人以上の都市の中で、年間降雪量が世界1位。あなたは、ご存知でしたか!?  
冬は八甲田スキー場(青森市)には欧米の方が多く訪れ、また、冬の東北新幹線には積雪氷(スノーモンスター)を見に行く中華圏の方が多く乗車されていることもあります。



株式会社クロベ 代表取締役  
黒部 能史さん



### ラッセラーラッセラー

#### 青森市

#### 青森ねぶた祭 (国の重要無形民俗文化財)

毎年8月～7月に青森市で開催される夏祭り。2018年は約280万人が来場。「ねぶた」と呼ばれる山車が運行され、「ハネ」と呼ばれる足籠り子たちが行列を歩く。正式な衣装を着れば、観光客もハネとして参加できるため、この数年は日本文化を体験したいという外国人観光客の参加も増えている。  
青森市文化観光交流施設「ねぶたの家ワラッセ」では、ねぶた祭りの歴史や鬼まかに毎年触れることができ、外国人の来場者も多し。



2017ねぶた大賞 あおもり市民ねぶた実行委員会「紅葉狩」(作:北村麻子)を参照

#### 八戸市

#### 館鼻岸壁朝市

八戸市内各地で開催されている朝市の中で、最大の規模。3月中旬～12月の毎週日曜、日の出から9時頃まで、300軒以上の屋台がズラリと並び、魚介類や青果、手づくり惣菜、コーヒー、火炙りパンから雑貨まで、扱う商品はバラエティーに富み、多い日には3万人が来場。  
食歩きメニューも充実中



朝食を外で食べる文化がある中華圏の方が多く見かけたよー



弘前市

弘前市リンゴ公園

約80種のリンゴの木が1500本植わっており、秋のリンゴ収穫体験には、中華圏を中心とした外国人観光客が、モリナヒに訪れる。リンゴは、もろこし、リンゴのお菓子やジュース、シードル等、加工品も販売しており、お土産スポットとしても魅力的。



地域にあるもの(リンゴ)を活かして観光客が感じるところ(収穫)を体験できるというのが人々に広がっています。ちなみに弘前公園の桜の管理には、リンゴの前定技術が応用されているんですよ。

たびすけ合同会社西谷 代表  
株式会社インアウトバンド  
仙台・松島 代表取締役  
西谷 雷佐さん

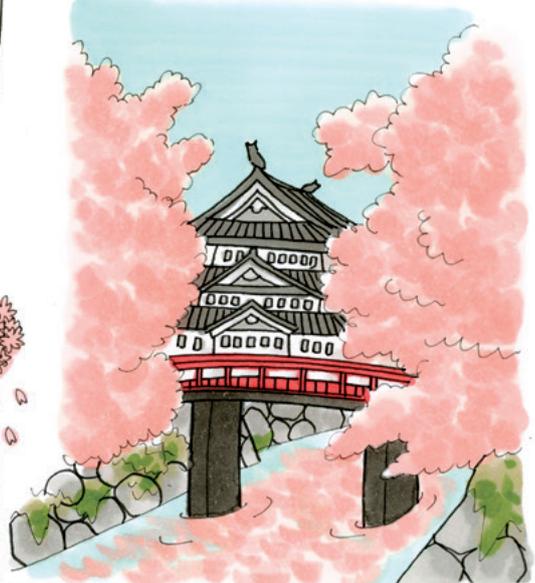
リンゴももきり体験は8月上旬～11月中旬

中国からカリフォルニア

弘前市

弘前公園

弘前城がある公園。お濠が桜の花弁で埋め尽くされる光景は花筏と称され、外国人にも人気！秋には、紅葉のライトアップも。



弘前市 弘前 旅館の石場さん

とんぼ 外食が大好き!?  
欧米の方と中華圏の方とは好みがちがいますね

欧米の方  
言葉がわからなくても地元の人と話す店を好む人が多い。コミュニケーション＆ローカル重視派。

中華圏の方  
メニューが番号でわかりやすく、頼みやすい。チェーン店等が好まれる傾向

十和田市

奥入瀬渓流

十和田湖から流れ出る奥入瀬川は、約14kmの遊歩道があり、夏は涼しい緑の木の間を、秋は紅葉の中を歩ける。紅葉の時期は、中華圏からの観光客のバスツアーが特に多い。



自国に紅葉がない、東南アジアの方は1年前から紅葉時期の宿を予約しているそう!! すばらしい!!

仙台空港から入って東北新幹線で青森へ。そこからバスに乗って奥入瀬にきました。

台湾からの2人旅男性。訪日の回目。東北は今回が初。

北海道函館市と青森県弘前市とを結ぶ飛行機、新幹線、フェリーも使っている。立体観光も県としても推進していると思います。



青森県観光国際戦略局  
誘客交流課  
国際誘客グループ 主幹  
清野 浩輝さん